

第10次若桜町総合計画「評価シート」

令和6年10月1日公表

【計画期間】令和4年度～令和8年度

1. 基本目標	2. 評価指標			3. ページ	4. 担当所属	5. 年度別達成状況				6 . 分 析	7. 関連する事業名・事業概要 ①予算額 ②決算額 ③具体的実施内容 ④今後の検討課題等と解決方法（方針）及び事業の推進方法（方針）
	項 目	現 状 (R3年度／ R2年度)	目 標 (R8年度)			R4年度（1年目）		R5年度（2年目）			
						実 績	達成率	実 績	達成率		
Ⅰ 安全で快適に暮らしやすいまち	自主防災組織率 ☆R3年度	85.7%	100.0%	31	総務課	85.6%	-0.7%	85.3%	-2.8%	■人口減少に伴い、町内世帯数（分母）が減り、相対的に結成組織世帯数（分子）も減少しているため達成率の低下につながっている ■未結成10集落のうち、20世帯以上の2集落は結成をR6年度までに完了して、20世帯以下の8集落に対しては、既結成組織と合同又は近隣の未結成組織同士合同で結成等、方策を提案する	■自主防災組織新規設立支援事業、自主防災組織支援事業 ①R4:925千円、R5:410千円 ②R4:472千円、R5:350千円 ③R2年度～4年度に鳥取県新規設立支援事業補助金を活用し、3団体が組織を結成して備品等を整備した ④地域の高齢化により結成率が停滞しているが、複数の組織が合同で結成することとで促進を図る
	交通事故発生件数 ☆R3年度	42件	0件	31	総務課	48件	-14.3%	45件	-7.1%	■観光客が増えた結果、その物損事故も増加したため、目標に至らなかった	■交通安全協会 ①R4:40千円、R5:40千円 ②R4:40千円、R5:40千円 ③運転者講習会の開催 ④参加者が減少傾向にあるため、対象をドライバー以外にも広げるなどして、講習会の内容を検討する ■カーブミラー等設置・修繕 ①R4:200千円、R5:658千円 ②R4:193千円、R5:658千円 ③カーブミラー等の設置及び修繕 ④特になし
	ごみ総排出量 ☆R3年度	668 t	523 t	31	町民課	654 t	9.7%	668 t	0.0%	■コロナが5類に移行し、様々な経済活動が活発になってきたため、ごみの排出量も増加したと思われる。また、可燃物処理施設リンピアいなばが本稼働したことにより、直接搬入が可能になったことも一因と考えられる	■資源ごみ回収報奨金、優良団体表彰 ①R4:651千円、R5:519千円 ②R4:401千円、R5:342千円 ③資源ごみ回収報奨金・古紙回収優良団体表彰 ④資源ごみ回収団体の固定化がみられるため、他団体でも積極的に参加できるようなPRを実施していく必要がある
Ⅱ みんなを大切にし、子どもを産み育てやすいまち	合計特殊出生率（外国人除く。） ☆R2年度	0.67	1.68	37	町民課	1.68	達成	0.66	-1.0%	■年による増減が大きいので、今後も確認が必要	■かがやけ未来！子ども・子育て応援祝金事業 ①R4:0千円、R5:4,200千円 ②R4:0千円、R5:2,350千円 ③【出産祝金】第1子及び第2子：100,000円、第3子以降：200,000円 【子育て応援祝金】児童1人につき50,000円を支給 ④特になし ■おうちで子育て応援給付金 ①R4:2,580千円、R5:5,190千円 ②R4:2,070千円、R5:3,510千円 ③1歳未満の児童を家庭内で保育している保護者に対し月3万円を支給 ④特になし
	特定健診受診率（国保） ☆R2年度	50.5%	65.0%	37	福祉保健課	50.7%	1.4%	47.9%	-17.9%	■コロナ禍となり検診の受診控えが生じ微減となっていると考えられる	■特定健診、各種がん検診、肝臓超音波検診、骨粗しょう症予防健診 ①R4:16,553千円、R5:21,766千円 ②R4:13,916千円、R5:18,295千円 ③健診自己負担額の軽減を図り、集団と個別検診を選択して受けるような体制を整えている。精密検査が必要な場合は保健師が対面で結果説明し、受診勧奨をしている
	健康診査受診率（後期高齢） ☆R2年度	57.2%	75.0%	37	福祉保健課	56.4%	-4.5%	66.7%	53.4%	■現状数値の把握方法と実績数値の把握方法が異なっており現状より減少していることも一因と考える	④受診者数が伸び悩んでいるため、医療機関との連携を強化、また、広く町民に情報提供して受診者を増やす
Ⅲ 豊かな心と体を育み、人材を育てるまち	若桜学園で英語検定3級以上の英語力を有する生徒の割合 ☆R3年度	25.0%	50.0%	44	教育委員会事務局	26.0%	4.0%	69.2%	達成	■昨年度より大きく上がった理由として、英語科の授業づくりの中心となる言語活動を重視したこと、オンラインスピーキングを活用して話す力を高められるように取り組んだことが要因と考えられる	■英語検定受検費補助事業 ①R4:300千円、R5:284千円 ②R4:116千円、R5:58千円 ③5年生以上の英語科の授業において、オンライン英会話事業を実施する予定である ④本事業はエドテック補助金事業を活用しているため、R4年度は町費の持ち出しなしで実施するが、学習効果があればR5年度以降の実施を検討していく
	町の審議会等における女性委員の割合（平均） ☆R3年度	33.8%	40.0%	44	教育委員会事務局	26.9%	-111.3%	27.6%	-100.0%	■現状は充て職等による登用が多く、目標を達成するためには、裾野を広げた啓発が必要であり時間を要する	■女性活躍推進 ①歳出予算なし ②歳出予算なし ③町の審議会等における女性委員の割合（平均）の向上促進 ④各部局への継続的な周知・啓発が必要
	伝統的建造物群保存整備事業補助金交付件数≪累計≫ ☆R3年度	5件	25件	44	経済産業課	3件	12.0%	3件	12.0%	■年間数件の問い合わせはあるが、国の指導により設計監理を伴う修理修景が必要となるため、補助率の高いものの通常より事業費が割高となり、住民の持ち出しが多くなる点や事業の指導監督を町で行う必要があるため、修理件数を増やすのは難しい状況	■伝統的建造物群保存地区保存整備事業 ①R4:13,097千円、R5:14,362千円 ②R4:12,419千円、R5:0千円 ③伝建地区内の建物修理修景希望者への補助 ④文化庁の基準に合わせた修理体制の確立、建物所有者への事業の周知

第10次若桜町総合計画「評価シート」

令和6年10月1日公表

【計画期間】令和4年度～令和8年度

1. 基本目標	2. 評価指標			3. ページ	4. 担当所属	5. 年度別達成状況				6 . 分 析	7. 関連する事業名・事業概要 ①予算額 ②決算額 ③具体的実施内容 ④今後の検討課題等と解決方法（方針）及び事業の推進方法（方針）
	項 目	現 状 (R3年度／ R2年度)	目 標 (R8年度)			R4年度（1年目）		R5年度（2年目）			
						実 績	達成率	実 績	達成率		
Ⅳ 豊かな自然を活かし、産業が活性化するまち	農林業新規就業者数≪累計≫ ☆R3年度	0人	3人	51	経済産業課	1人	33.3%	3人	達成	■農業研修生の受入、親元就農促進、集落営農組織の育成、退職就農者の確保・支援などに努める ■3Kイメージ、所得の低さ	■親元就農促進支援交付金事業 ①R4:1,200千円、R5:1,000千円 ②R4:1,200千円、R5:1,000千円 ③養豚における肥育・繁殖を主とする知識・技能を習得することで、養豚場経営の基礎を理解し、運営できるよう補助を行う。将来現在の経営主から親元就農者への経営移譲を目指す ④飼料価格の高騰や豚熱の感染拡大による被害が見込まれる ■若桜町林業研究会育成事業費補助金、若桜町林業担い手奨学金支援助成金、鳥取県森林整備担い手育成総合対策事業費補助金 ①R4:847千円、R5:880千円 ②R4:487千円、R5:485千円 ③若桜町林業研究会への補助や林業事業体が雇用する労働者の社会保険料を補助するもの ④林業の担い手育成や人材確保を推進するため、補助金による支援を継続する
	木材搬出量 ☆R2年度	19,000㎡	28,000㎡	51	経済産業課	17,400㎡	-17.8%	17,400㎡	-17.8%	■現場の人員不足及び施業地の奥地化により搬出量が伸び悩んでいる	■若桜町造林事業補助金、美しい森林づくり基盤整備交付金 ①R4:46,440千円、R5:36,912千円 ②R4:28,726千円、R5:23,341千円 ③林業事業体が実施する間伐等の森林整備に係る経費を補助するもの ④森林の適正な管理を推進するため、補助金による支援を継続する
	創業・継業者数≪累計≫ ☆R3年度	1件	15件	51	経済産業課	2件	13.3%	4件	26.7%	■コロナ禍が明け、新たな町内業者ができるなど次第に新規開業が増えてきている状況にある	■事業承継支援補助金事業 ①R4:500千円、R5:500千円 ②R4:500千円、R5:500千円 ③町内事業所の事業を承継する法人又は個人に対し補助金を交付する ④事業を承継する際に必要な経費を支援している。第3者承継についても検討していく必要がある ■創業支援補助金事業 ①R4:1,000千円、R5:3,000千円 ②R4:1,000千円、R5:3,000千円 ③町内で創業する事業者に創業に必要な経費を支援する ④創業者は確実に増えてきており、引き続き事業の周知を図り、創業支援の促進を図る
	観光入込客数 ☆R3年度	261,330人	300,000人	51	経済産業課	280,666人	50.0%	264,895人	9.2%	■R4年度に比べ1割近く減少しており、冬季の雪不足の影響が考えられる	■交流人口増加に向けたイベントの実施 ①R4:1,271千円、R5:4,210千円 ②R4:1,271千円、R5:3,700千円 ③鬼っこまつり、納涼花火大会、清流祭り等の実施 ④町外から多くの来訪者が訪れ、再度来町してもらえるような事業内容を検討する ■観光協会運営への支援 ①R4:14,302千円、R5:15,120千円 ②R4:13,611千円、R5:15,120千円 ③観光協会の運営へ補助を行い、町内観光の中心として活動いただく ④観光ガイドは高齢化が進んでおり、ガイド育成は大きな課題である。協会と連携を図りながら、体制整備を図っていく

第10次若桜町総合計画「評価シート」

令和6年10月1日公表

【計画期間】令和4年度～令和8年度

1. 基本目標	2. 評価指標			3. ページ	4. 担当所属	5. 年度別達成状況				6 . 分 析	7. 関連する事業名・事業概要 ①予算額 ②決算額 ③具体的実施内容 ④今後の検討課題等と解決方法（方針）及び事業の推進方法（方針）
	項 目	現 状 (R3年度／ R2年度)	目 標 (R8年度)			R4年度（1年目）		R5年度（2年目）			
						実 績	達成率	実 績	達成率		
Ⅴ 住みたい・訪れたい・楽しみたい魅力的なまち	移住者数≪累計≫ ☆R3年度	2人	200人	53	企画政策課	5人	2.5%	25人	12.5%	■移住定住促進事業 ①R4:616千円、R5:1,752千円 ②R4:196千円、R5:1,369千円 ③都市圏の相談会出展、オンライン相談会の開催、移住体験ツアーの実施、SNSやTVでPR、移住・定住ガイドブックの更新 ④新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより、相談会への出展等を本格的に再開できたので、今後も積極的に参加していく。また、町独自の移住体験ツアーの実施や、SNSを活用した空き家物件等の情報発信も行う ■若桜町特定地域づくり事業 ①R4:23,742千円、R5:17,633千円 ②R4:14,762千円、R5:16,949千円 ③若桜町特定地域づくり事業協同組合を支援することで、地域の仕事を組み合わせて年間を通じた雇用を創出し、協同組合から組合員へ人材を派遣することにより、地域の担い手を確保し、若者等の移住・定住を推進する ④現在は派遣先に偏りが生じており、一度も職員を派遣できていない事業所もある。今後も状況を注視しつつ課題解決への手立てを検討する必要がある	
	社会増減数 ☆R3年度	-49人	-15人	53	町民課	-40人	26.5%	-10人	達成	■若桜町住宅支援補助等 ①R4:22,800千円、R5:24,300千円 ②R4:2,000千円、R5:13,580千円 ③新築・住宅取得・Uターン改修補助等 ④新町の宅地造成の時期に合わせて予算の増額を検討する必要あり ■結婚新生活支援補助事業 ①R4:1,800千円、R5:2,400千円 ②R4:0千円、R5:0千円 ③新婚世帯（当該年度内に婚姻）が婚姻後に新たに居住する住宅の取得費用、賃貸費用、引越し費用を補助する ④実績がないため、制度周知の必要がある ■大学等奨学資金返還支援事業 ①R4:360千円、R5:360千円 ②R4:66千円、R5:30千円 ③対象者への奨学金返還支援を行うことで、若桜町への就労、定住を推進する ④制度の利用者が少ないため、制度の積極的な周知を図る	
Ⅵ 住民参加のまち	ふるさと納税寄付金額 ☆R3年度	23,100千円	100,000千円	58	企画政策課	20,721千円	-3.1%	63,805千円	52.9%	■R5年度は新規ポータルサイトの追加、共通返礼品である梨の寄付申し込みが増えたことが寄付額増加につながったと考える	
	企業版ふるさと納税寄付件数≪累計≫ ☆R3年度	0件	10件	58	企画政策課	0件	0.0%	1件	10.0%	■R5年度は吾妻商事有限公司（現：吾妻商事株式会社）から1件寄付の申し込みがあった	
										■若桜町企業版ふるさと納税地域創生基金 ①歳出予算なし ②歳出予算なし ③地元銀行と提携を行い、企業とのマッチングを図る ④地元銀行と提携を行い、企業とのマッチングを図る	